

コース概況 1 神居尻山（ C～A コース ）

北海道石狩市浜益区に位置する神居尻山（標高 946.7m）は、当別町の道民の森の造成に合わせ、1990 年（平成 2 年）に登山コースが作られた山である。樺戸山地の北端に位置し、札幌からも日帰り圏内ということから多くの登山者に親しまれている。山はなだらかな稜線と深い森を持ち、花の名山としても知られ、特に 5 月から 7 月上旬にかけては可憐な高山植物が咲き誇り、登山道を彩る。山名はアイヌ語で「神様の山」の意味で、雪崩によって谷が深く刻まれた威厳に満ちた姿はその名にふさわしい。

神居尻山のある道民の森神居尻地区には、総合案内所、森林学習センターをはじめ林間キャンプ場やコテージも完備されており、登山や自然学習にはうってつけの場所である。「道民の森」は、道民が森林とふれあえる場として、北海道が整備した森林総合利用施設である。「森に集う・森に学ぶ・森に遊ぶ」をテーマに神居尻・青山中央・一番川・牧場南・月形地区で森林とのふれあいを楽しめる施設となっている。

出発地点の森林学習センターから車道を左に進むと、最初に A コース登山口、さらに進むと両脇にはイタヤカエデやハルニレの自然林が広がり B コース登山口がある。車道をさらに 1 km ほど進むとスタート地点となる C コース登山口がある。今回我々は、穏やかな森歩きから一気に稜線を目指す C コースから登り、3 コースの中で最長だがコース変化に富みダケカンバが美しい A コースで下山する周回ルートを進む。

標高約 310m の C コース登山口から登山道に入るとすぐに、樹林下の急登が始まる。周囲はミズナラやダケカンバの林が広がり、道端にはエゾノレイジンソウ、クルマバソウ、ゴゼンタチバナ、イワカガミなどが見られるだろう。

470m 標高点を過ぎると、しばらくは傾斜の緩い尾根歩きとなり時折視界が少し開ける。樹間から石狩平野や支笏湖周辺の山並みも見える。途中「ドングリの木」の説明標識があり、ダケカンバが増え、足元にはマイヅルソウの白い花が咲いているのが見られるだろう。

標高 550m 付近の木製ベンチを過ぎた辺りから再び斜度が増し、細い丸太を組んだ階段上りが始まる。木段が連続する急登を進む。登るほどに傾斜はきつくなり、階段の歩幅も狭まって足を横に置かねばならないほどだ。高度はどんどん上がり、樹林帯の密度が少しずつ薄れ、空が開け始める。やがて樹林帯を抜けて草地の急斜面へと入る。ザレた土と小石が混じった路面が現れ、階段状に補強された箇所もあるが、崩れ滑りやすい所もあるので足元に注意が必要だ。補助ロープを利用し慎重に登りたい。周囲にはヨツバシオガマ、チシマフウロ、タニウツギ、シラネアオイなどが咲き、遠くに札幌や支笏湖周辺の連山が見える。

樹林限界を超え、稜線上に出ると眼前が深い谷に切れ落ち大展望が広がる。この稜線上を左に回り込みながら続く道をたどると、チシマザサが周囲を覆い、ハクサンチドリが花を咲かせるのが見られるだろう。ほどなく 842m ピークに到着し B コースと合流する。周囲の山々、特に西北西方向には石狩湾と浜益の街並みが一望できるパノラマが広がる。北北西には明日登る暑寒別岳の姿も遠望できる。振り返れば、今辿ってきた尾根筋がなだらかに続いている様子も確認できる。足元にはミヤマオダマキの姿も見られるだろう。

稜線を境にこれまでの樹林中心の景色から高山植物と笹の荒々しい景色に一変する。右側

に断崖のように落ち込むのは雪崩斜面で、樹木が生えず岩と草に覆われている。ここから先の稜線は崖縁のような所も歩くので、ロープも張られているもののくれぐれも安全に配慮して歩いてもらいたい。頂上へ向かう稜線の急斜面は、全体が高山植物のお花畑だ。タカネナデシコ、ヨツバシオガマ、イワオウギ、キクバクワガタ、エゾノレイジンソウ、ミヤマアズマギク、ショウジョウバカマ、ミヤマオダマキ、キジムシロなどが例年この時期咲き誇る。頂上へは崖縁の急斜面の階段登りだ。高度が上がると、稜線越しにピンネシリが姿を現す。小さな起伏を越えると大きな展望盤が置かれた山頂に到着である。

山頂は比較的広く、石が積まれ山頂標識が設置されている。山頂に立つと、まずその見事な展望に圧倒される。東南東にはピンネシリ（1100.4m）の美しい山容が連なり、遠く暑寒別岳方面まで見通せる。南側には石狩川の大きな流れと田園地帯が広がり、北海道らしい大地のスケールを肌で感じられる。天候が良ければこれから進む避難小屋方面を含め、存分に景観を楽しみ、ゆっくり休憩してもらいたい。

山頂で景色を満喫した後は、Aコースを利用して下山する。約50m下った地点には、2020年に建て替えられた真新しい避難小屋がある。寝具、トイレ、水場などはないが、そこにあることで登山者には大きな安心感を与えてくれている。小屋付近ではハクサンチドリ、ミヤマオダマキやチシマフウロの赤や青の花に混ざって、ゼンテイカの黄色い大きな花が見られるだろう。さらに先に進むと今は廃道となったピンネシリへの縦走路分岐に当たるが、そこを左に折れ下っていく。

分岐点から少し進み急坂を下るとダケカンバの若木が目立つようになり、植生が変わり始める。この先からは、尾根沿いのやや急な下り坂が続くことになる。標高865m付近、尾根は細くなり、両側が急斜面になる。足元は固い土と小石が主体であるが、所々に露出した根っこがあり、注意深く歩く必要がある。タニウツギのピンクの花が目を引きことだろう。さらに高度を下げると、周囲はやがて樹林帯へと変わる。

標高780m付近ではミズナラやイタヤカエデなどの広葉樹が中心となり、道は緩やかな下りへと変わる。標高690mに差し掛かると、登山道は少し湿った土質へと変わる。この区間では、木の根が露出している箇所や、前日までの天候によってはぬかるんだ足場が滑りやすくなっているため、一層注意深く足を運ぶ必要がある。森の中ではエゾアジサイが蕾をつけ始めているのが見られるかもしれない。

さらに下り続けると、標高539mを少し越えた所で神居尻山森林管理道を右側に見るが、左側の登山道を進む。このポイントには簡素なベンチが設置されている。周辺では、マイヅルソウ、クルマバソウ、ハクサンチドリが見られるだろう。

道は次第に草地へと変わる。遊歩道と交差する箇所が2カ所あるが、標識もあり明瞭なので迷わず登山道を進む。背の高いヨシやササに囲まれた道を進み、緩やかな傾斜を降りAコース登山口手前の分岐を右折し、林間キャンプ場へと向かう。虫が多いので、最後まで虫よけ対策は気を抜かないほうがよいだろう。